

2025
議会だより

よしか

第75号

令和7年7月25日

“よりよき明日”に挑戦

Working Together for a Better Future

- | | | | |
|-------------------|-----|----------------|-------|
| ▶ 第2回定例会 | 2～3 | ▶ 一般質問 | 10～12 |
| ▶ 主な質疑と討論 | 4 | ▶ 発議・要望・議員研修 | 13 |
| ▶ 臨時会・全員協議会 | 5～6 | ▶ 小学生議会学習・議会視察 | |
| ▶ 議会へのご意見 | 7～8 | 編集後記 | 14 |
| ▶ 議案の議決結果表・前号のお詫び | 9 | | |

第2回 定例会

〈令和7年6月13日～6月20日の8日間〉

一般会計補正予算(第1号) ▲ 1,884万5千円
補正後の一般会計予算総額 90億1,871万7千円
昨年比 14.8%増

【減額の主な理由】

昨年11月1日～2日にかけて、最大24時間雨量276ミリを記録、これにより町道馬橋線馬橋が被災しました。地元の同意を得て撤去することになり、昨年12月議会で4,000万円(上部工)、今年3月議会で3,346万円(下部工)計上されましたが、高津川漁協、津和野土木事務所との協議により、上部工・下部工が一括撤去され3,346万円の減額予算となりました。

「吉賀町風力発電事業と 地域との調和に関する条例」が可決

町内の一定地域で風力発電事業を規制する条例案が、賛成多数で可決された。民家から1.5km以内など建設禁止区域を設け、建設に当たっては町の許可を必要とする内容である。

風力発電に限定した規制条例は、中国地方では初めてである。主に出力10kw以上の風力発電を対象に、民家から水平距離で1.5km以内、町指定文化財があること、騒音が環境基準値を超えると想定される区域での建設は禁止。

鳥獣保護区などの建設抑制区域も設けている。

建設に当たっては、隣接する土地の所有者や、地元自治会の代表者の同意を得た上で、町の許可を求めるなどの手続きを規定している。

違反をすれば、事業者名を公表し、国や県に通告するとしている。

執行部との激しい議論の末、賛成、反対討論に5人が立つなど、緊迫した雰囲気の中で、賛成多数で可決された。

この条例は、令和7年7月1日から施行される。



主 な 事 業



白谷自治会館ドア修繕費
102万円



官民連携担当の集落支援員配置費
375万円



はとの湯荘屋上防水工事費
347万円



とびのこ苑機械器具費
193万円



町民柿木体育館修繕費
44万円



撤去された馬橋
▲3,346万円

主な質疑と討論

一般会計予算

集落支援員委託料 375万円

遅々として進まない旧六日市学園の施設活用に不満爆発

村上議員

支援員に何を求めるのか。

【企画課長】

地域課題の分析と解決である。

庭田議員

集落支援員が4名になる。支援員の活動に行政はどのように関わっているのか。

【企画課長】

行政のコミュニケーション不足があったと反省している。

反対討論

藤升議員

財政が厳しいという時に「まちの駅」づくりを急ぎ、使っただけの価値や、効果のないムダ金になる可能性が否定できない事業への支出は認められない。

中国地方で初 風力発電施設規制条例制定へ

禁止区域の設定や、土地所有者の責務など様々な内容を含んだ「風力発電事業と地域との調和に関する条例」が賛成多数で可決されました。

【町長】

国が進める再生エネルギー事業に反対するものではない。
全国で住民とのトラブルが頻発しているので一定の規制は必要である。
条例の制定は高津川源流の自治体の責務である。

反対討論

河村(隆)議員

制定ありきではなく、内容を精査して町や住民を守るしつかりとした条例にすべきである。

藤升議員

健康障害・環境・動植物への影響など細かく調査したうえで再提出すべきである。

大庭議員

もう少し内容を検討して後々問題が出

ないような完全な条例にするべきである。

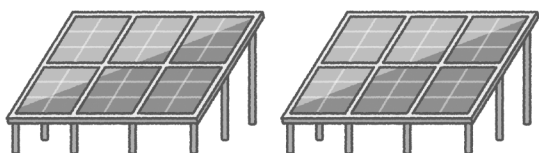
賛成討論

桜下議員

町は太陽光発電事業の条例を制定している。住民を守るためには当然風力発電に関する条例も必要である。

庭田議員

太陽光・風力発電事業は各地でトラブルを起こしている。自然環境や住民の安全・安心を守るために条例は必要である。



第2回臨時会

(5月8日)

・請負契約の締結（令和7年度柳原団地A棟建築工事）について

現在入居中の柳原団地を中山団地の跡地に建替え。

藤 升 議 員

Q. 住宅の空き家が多数ある中で建築する合理性はあるのか。

【税務住民課長】

A. 最近、入居者が増えている。
今回の建築は、現在入居されている方が住宅完成後に移住していただくもの。

・令和7年度一般会計補正予算（第1号）

はとの湯荘のレジオネラ菌検出による休業補償費

大 庭 議 員

Q. 以前にも検出されたが、なぜ再々出るのかの原因は調べているのか。

【企画課長】

A. 温泉施設の特性上、菌が増殖しやすい温度帯にあり、しっかりとした管理や施設の改善が足りなかった。

桑 原 議 員

Q. その場しのぎの修繕ではなく根本的な対策が必要ではないか。

【企画課長】

A. 最近、工事規模も大きくなり修繕料も高額になっているため、しっかりとした見直しを行っていく。

庭 田 議 員

Q. 4年間も管理期間があるが、結局大きな投資はできないということは継続はしないということか。

【企画課長】

A. 存続する、更新する、継続しないということについても考えさせていただいている。

第6回全員協議会

(5月8日)

・馬橋上部工撤去工事の内容変更について

上部工撤去工事に下部工である橋脚の撤去も追加するもの。

桑 原 議 員

Q. 上部工、下部工合わせて工事の総額は幾らになるのか。

【建設水道課長】

A. 見込みで総額3,000万位でおさまるのではないかと試算している。

・社会福祉協議会の事業計画について

令和7年度から11年度までの5年間を見据えた中期経営計画で、地域や福祉の課題についての方向性を示したもの。

三 浦 議 員

Q. 人材不足等による問題もあるが、国等の制度において補助金等の支援策はあるのか。

【社協事務局長】

A. 島根県では外国人が定着するための支援制度はあるが、現時点で補助金はない。

第7回全員協議会

(6月3日)

・「よしか病院」及び「よしか介護医療院」の状況等について

令和6年度及び令和7年4月までの外来患者、一般病棟、介護医療院等の運営状況。

村上議員

Q. よしか健康ダイヤルについて、病状や夜間の救急車搬送を記載した統計等の資料はあるのか。

【医療対策課長】

A. 委託業者については相談のみで、把握できておらず統計も持ち合わせていない。

三浦議員

Q. 六日市病院とよしか病院との比較で、町からの財政負担の状況は変わらないのか。

【医療対策課長】

A. 明らかによしか病院のほうが良い状況である。今後も一般会計からの繰り出しを減らす努力をしていきたい。

・第84回国民スポーツ大会中央競技団体視察の報告について

2030年の島根県での国民スポーツ大会開催について、中央競技団体の視察が行われ、指摘事項や要望事項を踏まえ委託契約による基本計画を策定するもの。

桜下議員

Q. グラウンド整備等に係る経費について、国・県の補助金、町からの持ち出しはどうなっているのか。

【教育委員会課長補佐】

A. 特別な財源はないが、県や日本サッカー協会からの補助金もあり、「まちの駅」関連の財源も使える。町の持ち出しが少しでも減るよう検討していく。

・高津川てらすとの官民連携事業について

官民が連携して人材育成や経済循環を促し、将来にわたって持続可能な地域振興を実現するもの。

藤升議員

Q. 財政状況が厳しい中で、果たして進めるだけの条件がどこにあるのか。

【企画課長補佐】

A. 「まちの駅構想」だけではなく町全体の公共施設のあり方も含めて幅広く検討し事業を進めていく。

河村(隆)議員

Q. 町と民間が資金等出し合って共同で公共サービスを提供していくことが官民連携であり、民間がしっかりとした財政力、企画力を持ち運営していける構図がなければ無理ではないか。

【町長】

A. 行政、高津川てらすと一緒に、外に情報発信し、本来の官民連携を進めていく。

庭田議員

Q. 行政は今まで3年もなぜ放置しておいたのか。資金力のある民間企業を呼んで活用してもらう姿勢を出せないのか。

【町長】

A. この2年間はやりきれていなかった。3年目からは定期的に意見交換の場を設け議論をしながら、しっかり頑張っていきたい。



議会についてのご意見をお聞かせください

吉賀町議会では、議会活性化のため、具体的な取り組みを進めています。

つきましては、住民の皆様から議会についてのご意見や提言をお寄せいただきたいと思います。

ご住所やお名前を記入された方には、回答させていただきます。

なお、議会・町政に関しないものやひぼう中傷等には回答いたしませんので、ご了承下さい。

切り取り

折ってください

のりしろ

料金受取人払

益田郵便局承認

527

差出有効期間

2026年2月

28日まで

〔切手不要〕

698-8790

吉賀町六日市七五〇

吉賀町役場 議会事務局 行

折ってください

ご意見等ある方は、
裏面にご記入の上、
外枠にそって切り
取り封書にして投
函してください。

のりしろ

切り取り

折ってください

- ◇議会・町政以外のことについてのご意見等はご遠慮ください。
- ◇ご住所、お名前の記載がない場合は、回答はいたしません。
- ◇いただいたご意見等を、匿名で「議会だより」や町のホームページに掲載することがあります。
- ◇簡潔な内容をお願いします。

切り取り

(個人情報保護により、記載されたご住所、お名前等は他の目的には使用しません。)

件 名

切り取り

『議決結果表』

【全員賛成で可決した議案】

(議長は、可否同数の場合を除き採決に加わらない)

	議案番号	件名
臨時第2回	議案第39号	請負契約の締結（令和7年度柳原団地A棟建築工事）
	議案第40号	請負契約の締結（令和7年度柳原団地B棟建築工事）
	議案第41号	令和7年度一般会計補正予算（第1号）
第2回定例会	議案第43号	吉賀町空家等対策協議会設置条例の一部改正
	議案第44号	吉賀町医療介護従事者住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正
	議案第45号	吉賀町放課後児童クラブ条例の一部改正
	議案第46号	吉賀町ケーブルテレビ施設条例の廃止
	議案第47号	令和7年度吉賀町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）
	要望第1号 (令和6年)	農業用水路の移設及び町道広石線の道路拡張整備、並びに国道下の用水路の堆積物処理に関する要望書
	要望第1号	吉賀町老人福祉センター「かきのき温泉はとの湯」存続に関する要望書

【賛成多数で可決した議案】

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

	議案番号	件名	桜下	村上	三浦	桑原	河村(由)	松蔭	河村(隆)	大庭	藤升	中田	庭田
第2回定例会	議案第48号	令和7年度吉賀町一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	欠	●	○	●	欠	○
	議案第49号	吉賀町風力発電事業と地域との調和に関する条例の制定	○	○	○	○	○	欠	●	●	●	欠	○

【賛成少数で否決した議案】

○：賛成 ●：反対 欠：欠席

	議案番号	件名	桜下	村上	三浦	桑原	河村(由)	松蔭	河村(隆)	大庭	藤升	中田	庭田
第2回定例会	発議第2号	地域医療を守るため、緊急的な財政支援措置を求める意見書(案)	●	●	●	●	○	欠	○	●	○	欠	●
	発議第3号	物価上昇に見合う年金支給を求める意見書(案)	●	●	●	●	●	欠	○	○	○	欠	●

訂正とお詫び

令和7年4月25日発行の議会だより「よしか」第74号15ページ「県内町村の議員定数と議員報酬の状況」表中の記載に、次のとおりに誤りがありました。

訂正してお詫びいたします。

(誤) 巴南町 ⇒ (正) 邑南町

地方創生推進を



河村 由美子

質問

人口減少対策を推進する
部局横断のプロジェクトチームをつくり、
①【地域づくり】若者や女性に魅力ある働きやすい職場や子育て支援、定住拡大を目指す。
②【故郷づくり】地場産業強化、交流人口拡大。
③【生活基盤づくり】交通や医療などの防災を進める。
チームは現状や課題を共有し町内に出かけて、現状を見て聞くことから始め、人口が減っても心豊かなまちづくりを実現すべきである。

合併の検証と課題

質問

合併して改めてよかった点の現状と課題、今後の財政的な推移、人口減少への対応、地域経済の底上げ等々対策について問う。

合併から20年

町長

平成の大合併は、地方分権の担い手となる基礎自治体にふさわしい行政基盤の確立が目的だったが、主な問題点、課題は周辺部の住民の声が届きにくくなることである。

豊かなまちづくりを

町長

人材育成を進め、事業の声を絞り、広島広域連

農業者の減少対策は



三浦 浩明

質問

人口減少や高齢化問題による農業者減少の実態がある。

近年、肥料や農機具等の物価高騰による悪影響を受け、今後も農地の維持管理も難しくなると同時に農業離れも考えられる。

当町としても地域計画等の対策を進めてはいるが、農地を守るため将来的にどのような対策を講じていくのか。

農地維持の体制づくり

町長

町内に農業を支える基幹的農業人口は、令和2年度で平均年齢が約73歳で65歳以上の割合は88%となっている。農業を支える担い手の高齢化、後継者不足

質問

米価に象徴されるように、日用品などあらゆるものの価格が上昇している。

物価上昇は今後も続くと思われる、特に生活困窮者は大変困っている。

生活困窮者に限った地域振興券などを発行して、生活の一助になるよう、何か対策はできないか。

断言できない

町長

限られた予算の中で行政執行するわけであり、当然効率的な行政執行を行っているかなければならない。現在行っている制度では、事業者等に対し、物価高騰対策の支援金交付も行っている。

生活困窮者の支援を



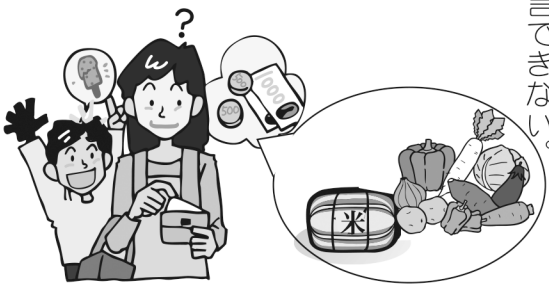
大庭 澄人

質問

エネルギー価格の高騰対策支援金についても、現在進行形で対策を講じている。

すでに来年度の当初予算編成に向けて、事務方で精査をはじめている。その中で考えていかなければならないと考える。

現段階では、その考えがあるという事は断言できない。



地域医療デザインの作成を



庭田 英明

質問

52億5千万
円を費やして、
令和9年に新病院を開
院するという計画が、
半年も経過しない間に
突然10年先の建設に変
更された。

町民のために医療を
守るという町の真剣な
姿勢が全く感じられな
い。

持続可能な医療体制
を構築するために、町
民・病院・行政・外部
識者で協議会を立ち上
げて、町の医療デザイ
ンを早急に作成すべき
である。

今ある組織で協議

町長

すでに設置
している吉賀
町地域医療協議会で対
応できると考えている
ので、新しい組織をつ
くる考えはない。



オーガニック給食の
充実を

質問

オーガニッ
ク給食を安定
して提供するためには、
農作物の計画的な作付
けなど細かな計画が必
要である。生産者・保
護者・教育委員会・産
業課などで構成する組
織を立ち上げて、食材
が安定供給できる体制
を整えるべきである。

考えていない

町長

現段階で、
新しい組織を
つくることは想定して
いない。

大井谷棚田の活用を



河村 隆行

質問

大井谷の棚
田では石積み
の水を有効に分け合い、
大型機械も導入できず、
昔ながらの手作業での
米づくりが行われている。

柿木小学校だけでなく、
町内各小中学校でも
体験する事が必要と
考える。

貴重な体験

町長

児童にとつ
て稲作はその
原点を学ぶ貴重な体験
の場となっており、各
学校様々な形で農業体
験を総合的な学習の時
間にとり入れている。
学校の授業以外のと
ころで関わる場を設定
できないか、公民館や
関係団体と一緒に検討
したいと考えている。

町の取り組みは

質問

町は何も取
り組まないの
ではなく、集落支援
員・地域おこし協力
隊・特定地域づくり事
業協同組合などの活用
もある。

町外に住んでいても
家族みんなで田植えし、
米づくりは家族総出で
行う、この取り組みを
町が応援することで持
続し、つないでいく縦
のつながりが生まれ、
町に賑わいが戻ってく
る。取り組みを聞く。

多面的機能も

町長

農業的価値
はもちろん、
洪水調整、生態系の保
全などの環境保全効果
あるいは観光、また文
化的価値もある。

益田―岩国道路整備の早期実現を



村上 定陽

質問

益田―岩国
間を結ぶ高規
格道路建設について、
現在山陰道（国道9号）、
中国道、山陽道（国道
2号）の東西を結ぶ幹
線道路で、南北を結ぶ
高規格道路が中国道の
広島北JCTと美祢東
JCTの約151kmの
間は整備されていない。
六日市ICを経由す
る『益田―岩国』を結
ぶ高規格道路の整備を
急ぐことにより、近年
騒がれている中山間地
域での医療崩壊を防ぐ
一助になり、加えて山
陰と山陽との経済・文
化の交流による発展に
つながると考える。

早期の期成同盟会立
ち上げを先頭に立って
進める考えはないか。

勉強会の中で協議

町長

国道9号の
事前通行規制
区間の解消を要望して
いるなか、本年4月に
山口県側の木戸峠付
近の道路改修が事業化
された。島根県側も規
制区間があり、神田―
枕瀬間も、もうすぐ事
業化されるのではと期
待を寄せている。仮称
『益田―岩国道路』に
関しては、平成30年か
ら担当者レベルでの勉
強会を立ち上げ、6月
30日には益田管内の首
長や、浜田河川国道事
務所長、県土木部長な
どを交えて意見交換が
行われる。これまで無
かった線を地図に落と
すことは難しいことで
あるが、関係者と連携
し進めていく。

夜間救急の復活目指した活動を



藤 升 正 夫

質問

町内には24時間操業の事業所、高速道路の出入り口があり、住民の方からは「吉賀町で夜間救急の復活を是非して欲しい。」と強く求められている。

常勤医師の確保さえままならないと言われるが、経済開発協力機構の医療関連データの国際比較によると、人口千人あたり日本の医師数は2.5人、加盟国38か国の平均は3.7人、人口10万人あたり医学部卒業生は、日本は最下位の7.1人、平均は13.2人と平均の半分ほどではない。

医師確保が地域の医療を守る

医師の働き方改革では残業の上限が年960時間の過労死ライン、しかも地域医療の確保など長時間労働が必要

町長

医師数は増え、地域間の格差が大きな課題となっている。

医師数の確保対策、勤務環境の改善が地域の医療を守ることにつながる。

放射性廃棄物の受け入れは



桜 下 善 博

質問

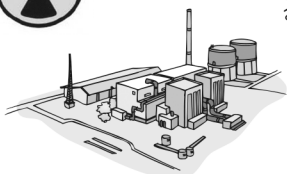
5月に、益田市の経済界有志によるグループが、市議会に対し、核のごみ文献調査の請願を検討していることが大きく報道された。

町長は、益田市の動きを知っていたのか、寝耳に水だったのか。文献調査の受け入れで、約20億円、また概要調査の受け入れが認められれば最終的には約70億円が国より交付される。しかし、何度も水質日本一に輝いた「清流高津川」を擁する水源の町でもある。また、県下に先駆けオーガニックビレッジ宣言をした当町である。高レベル放射性廃棄物の受け入れについて町長の見解は。

反対である

町長

報道を受けて初めて知った。益田市長にも反対を伝えた。益田圏域の共有財産である「一級河川高津川」を取り巻く自然や環境を、流域の皆さんと一緒に守らなければならぬ。風評被害等によって、環境や風土がそがれるのは大変遺憾である。いかなる目的があっても核のごみの処分場設置に関する動きには反対である。



大合併20年のアンケートから



桑 原 三 平

質問

4月2日、新聞に19市町村長に行ったアンケートの結果が公表された。「未来描けるか、平成の大合併から20年」という見出しである。町長の回答について、至った経緯、考えを聞く。

対応が必要

町長

Q. 公共施設の統廃合、インフラの老朽化対策は必要か。

A. 必要である。
Q. 施設等の整備、改修の予算の確保は、できていない。
A. 道路や橋などのインフラの廃止は必要か。
A. 必要ない。
と回答している。

合併以後、様々な公共施設、インフラの老



発議

※議員が提出した議案

【発議第2号】

地域医療を守るため、緊急的な財政支援措置を求める意見書（案）

提出者 藤升 正夫

〔理由〕 昨年の診療報酬引上げ幅を大きく上回る物価高騰により、多くの病院が赤字経営を余儀なくされており、緊急の財政支援で経営を安定させるとともに、地域医療を支える人材確保をすすめるため。

◇賛成少数により否決



【発議第3号】

物価上昇に見合う年金支給を求める意見書（案）

提出者 藤升 正夫

〔理由〕 高齢者、障がい者、遺族の年金を、暮らしを支えるに足りるものとする事によって、安心できる生活を保つため。

◇賛成少数により否決

要望

【要望第1号】（令和6年）

農業用水路の移設及び町道広石線の道路拡張整備、並びに国道下の用水路の堆積物処理に関する要望書

提出者 広石地区自治会長 桑原 千寿

◇全員賛成により採択

【要望第1号】

吉賀町老人福祉センター「かきのき温泉はとの湯」存続に関する要望書

提出者 「かきのき温泉はとの湯」

存続を望む有志一同

代表 棚木 英一

◇全員賛成により採択



要望書を受け取る安永議長

官民連携研修会

5月23日、役場六日市庁舎にて、議員研修会を開催しました。

講師に、吉賀町地方創生アドバイザー吉長成恭氏を迎え、「官民連携」についての見識を深めました。

地域再生推進法人「高津川てらす」が管理運営に携わり3年目となりましたが、健康フィットネスや有機農業など、一部には定着して利用者が増加している取り組みもありますが、まだまだ課題も多く、持続可能な事業運営に至っていないのが現状です。

講演を受け、「官民連携」には議会の関わりがますます重要であることを学んだ研修会でした。



官民連携研修会の様子

ようこそ吉賀町議会へ

六日市小学校のみなさん

5月16日、六日市小学校6年生が、社会科の「政治教育」の一環で、議場見学に来られました。当日は安永議長、増本事務局長から町議会の仕組みや役割について説明を行い、ポタンでの採決システムや、質疑応答を「ミニ二六小議会」として体験されました。



6月定例会最終日にあたる20日には傍

聴に来られ、議会の流れや議論の場を見学されました。

後日、児童のみなさんからは「はじめて知ることがたくさんあった」、「議会のルールや議員さんの役割がわかってよかった」など、丁寧な感想文を寄せていただきました。

この取り組みは昨年からはじまり、熱心に学習するみなさんの姿がとても印象的でした。



朝倉小学校のみなさん

7月3日、朝倉小学校の3・4年生5人が、社会科の授業で役場を訪れ、各課の仕事を見学されました。

町長から、町の仕事や行政の役割について説明を受けた後、議場を訪れ、議員席から議会の役割について説明を聞き、採決システムによる採決を体験されました。



「賛成と反対が同数になったらどうするのか」など、短時間でしたが鋭い質問も出され、有意義な見学となりました。

長野県木曽町議会のみなさん

7月1日、長野県木曽町議会の総務経済常任委員会が視察に来られました。

木曽町は、駒ヶ岳のふもとに位置し、昔の宿場の町並みが残る、知名度の高い町です。

しかし、人口が約1万人と本町の約2倍に対し、年間出生数が30人前後と本町とほぼ同数で、本町が高い出生数を維持し、「消滅可能性都市」から脱却できた「まちづくり」を学ばれました。

編集後記

暑い夏を迎え、町民の皆様も日々の日常生活や体調管理が気にかかる季節になりました。

近年、国内で働き方改革や物価高騰等、個人はもとより企業においても日常や経済面にも様々な影響が出ています。

また、諸外国での紛争やトランプ関税等の動きが国外でもありますが、当町においても決して影響のない事案ではないと感じています。

町議会としても今後の経済等の動向も見守りながら、安心して住める活力のある「まちづくり」のため、皆様の声を受け止めながら活発な町議会を目指していきます。

三浦 浩明

広報広聴常任委員会

村上 定陽、三浦 浩明、桜下 善博、河村 隆行、庭田 英明

【今日の表紙】

自動車部品の製造をしているヨシワ工業では、キユボラ（炉）で約1600℃の熱で鉄の材料を溶かし、型へ鋳込（いこ）む溶湯（ようとう）の成分・温度などの管理をしています。厳しい品質基準を満たす製品をつくるための重要な工程です。

撮影…川上 泰博さん（美美一芸）